

長岡地域振興局 農業振興部 農業企画課

# 小湊信雄課長 講演会議事録

# 長岡の農業の現状と課題について

# 1. 長岡農業の特徴

- ⌋ 農業産出額に占める**米の割合74%** 全県と比べて**依存度が高い**。
- ⌋ 総農家数は**減少**傾向。基幹的農業従事者のうち、65歳以上の割合が**74%**と**高齢化**も進んでいる。
- ⌋ 農産物の直売所は**106店舗**。販売額は**9億円超**で販売額は**増加**傾向にある。

## 2. 新潟県農業の傾向

- ▮ 生産し販売する販売農家は減少、生産し自家消費する自給農家は微増傾向。
- ▮ 法人化を行い大規模化する経営体も増加。
- ▮ 農業就業人口は5年前に比べ23.4%減少。全国に比べ高齢化も進む 農業の中心を担う従事者数は横ばい。その従事者がそのまま高齢化している。
- ▮ 「担い手」と呼ばれる地域の中心農家に農地集積が進展、農家一軒当たりの経営規模は拡大傾向。
- ▮ 6次産業化（農産物加工・体験農園・観光農園・農家レストラン・輸出などの取り組み）は増加傾向だが、多くは農産物加工まで。
- ▮ 農産物の出荷は大半が農協へだが、消費者などへの直接販売も伸びて来ている。

### 3. 後継者・担い手の確保

□新潟県は年間280人の新規就農者（農業法人に就職する人や後継者として家業の農業に就く人）を目指している。年間世代交代を280人と予測し現状維持が出来る数字である。

□ここ数年は250名程度で約9割の達成度。

## 4. 農林水産基本データより

- ㊦ 国内総生産額に対する農業生産額は1%弱。しかし食品産業は9%を占める。ここに農業者が食い込んでいく余地があるのではないか。
- ㊦ 農産物輸入額5.58兆円(農林水産だと8.65兆円)に対し、国内農業生産額は4.66兆円。国内生産より輸入農林水産物が多くを占める。
- ㊦ 米の国内生産量は年間約800万t。ピーク時は1,400万t超である。現在はピーク時の57%程度。
- ㊦ 米の生産費は10a(1000m<sup>2</sup>)当たり14万円、対して売り上げは12万円程度。赤字でも続けられる理由は生産費に家族労働費が含まれているからという現状。
- ㊦ 主に兼業農家を指すが、赤字でも農業を続けられるのは外部(農業外の仕事)収入があるから。

## 5. 解決すべき問題点及び解決方法

- 安定的に地域農業を継続する為に、担い手への**農地の利用集積**など**農業基盤を強化**させる事が必要。(小規模では赤字経営に陥り易い為)
- **米への過度な依存を改善し、園芸(野菜等)等による複合化の拡大**や、**6次産業化**を推進する。
- 高品質な新潟米の**安定生産**。**ブランド力**の強化。

## 6. 農業と他産業との連携

- 長岡農林振興部は平成23年に商工業者とのマッチングを開催。  
商工業者の意見として、「**農産物の納品時期・数量・品質が不安定で、農業者と継続して事業を行うのは困難である。**」との意見が多く聞かれた。
- 農業の特異性として、作業や生産がその年、その日の天候・気象に左右され易く、**生産量と品質を一定に保つ事の困難性**が挙げられる。



## 7. 長岡管内の6次産業化の例

- u 旧和島村 (有)ケーエスファーム のガンジージェラート
- u 旧栃尾市 農事組合法人越後田舎の親類村の農村レストラン
- u 小千谷市 (有)農園ビギンのサツマイモプリン